

夢じゃーなる

Vol.

9

第3期阪神北地域ビジョン委員会だより

平成18年(2006年)6月

発行：阪神北地域ビジョン委員会
編集：阪神北地域ビジョン委員会広報部会

<http://web.pref.hyogo.jp/hanshinkita/vision/v-index.html>

目次

・総会を開催して	2
・あってみない?きいてみない?	2
・広げよう!子育て支援の輪	3
・今年の活動をスタートして	3
・地域夢会議	4~5
・「出前県民演芸団」初出動!!	6
・中山寺での集いを催して	6
・武庫川流域エコバス	7
・花と緑のフェスティバル	7
・ツーリスト・マップづくり	8
・ホットコーナー	8
・編集後記	8

「みんなでつくる活力あふれる潤いの生活空間」をめざして

阪神北地域ビジョン委員会は、兵庫県知事の委嘱を受けた委員により構成され、「自律的な市民の参画と協働により新しい公の領域を築く」を基本理念に、ライフスタイル・コミュニティ・都市環境・阪神経済の4分野に11の活動グループと広報部会が県民の立場で地域づくり活動を行っています。

題字：早野 邑水

総会を開催して

第三期阪神北地域ビジョン委員会 委員長 伊藤 順一

昨年四月、私たち第三期阪神北地域ビジョン委員が委嘱を受けてから一年が経過しました。阪神北地域の見知らぬ者同士約百人が、「自律的な市民の参画と協働により新しい公の領域を築く」という基本理念のもと、「自律と寛容の精神」で、この一年間様々な議論を経て他の委員の皆さんと協働されてきた結果、今年三月十九日三田市で開催した総会にて県民行動プログラムが取りまとめられました。

すでに私たち第三期ビジョン委員会は、十一の活動グループと広報部に分かれ活発にグループ活動を展開していますが、さらに十八年度は、各グループの活動がより大きな広がり



▲ビジョンパートナーによる活動発表

りをみせ、一人でも多くの県民の皆様方に私たちの活動を理解して頂き、「私たちの地域は私たちがつくる」という意識が阪神北地域



▲懇談風景

に広がっていくことを心から念じてやみません。

総会終了後は、第一期と第二期のビジョン委員のOBである「ビジョンパートナー」の皆様にもお越し頂き、三田市いずみ会の皆さんによるおいしい手料理で交流を深めました。

また、ビジョンパートナーの皆さんが「卒業後」も活動を続けられて素晴らしい成果をあげられているとの報告を聞き、我々第三期ビジョン委員のメンバーも大変勇気づけられました。

私たちビジョン委員会の活動が人と人とのつながりを大事にできる活動へとさらに飛躍し、「あなたと出会えて本当に良かった」と思える活動をしたいと思っています。

各分野の活動紹介

第一分野

あつてみない？きいてみない？
面白い話があるかもよ！

三月二十六日、宝塚市男女共同参画センターで、交流の輪を広げる趣旨で、地域活動に熱心な宝塚市・真言宗平林寺西光院の佐々木住職を講師に招き講演会を開催しました。

『お坊さんは難しいことばかり言うてるんとちゃう。お経を読むこと以外でもお役に立てると考え、私たちの声や姿でも楽しんでもらえれば』をモットーに地域活動を行っているとのことでした。お坊さんらしく、法衣の色と由来から仏教の伝統へと



話が続ききました。

一方、主宰しているお坊さんの合唱団のステージ衣装（黒い法衣に真っ赤な蝶ネクタイ）も披露し、伝統は時代の流れに即して変化してもよく、それが伝統を真に守ることにつながると持論を展開されました。

また、伝統を維持する上で一番重要なことは命を守ることであって、その他のことはできる限り次世代に譲るべきであるとの意見であり、『命が守れないようでは伝統を守ることができない』との話から、少子高齢化の現状を打破する一つのヒントを得たと感じました。

世代間交流については『双方から話しかける環境作りが必要であり、各世代の老若男女が集まるお祭りなどは、世代間の壁を取り払って話し合いができる数少ない機会と考えます。世代間交流を活発にするためには何か大きいことを一つ楽しく大胆に仕掛け、進めることが必要です。世代間交流を進める人が楽しくやれば参加する相手も楽しくなり、交流が円滑になるのでは』と地域活動の実践的な経験からくるアドバイスがありました。

暦、因習など興味ある話が続き、質疑応答の時間が不足するほどでした。

（多世代交流グループ

井上 及

各分野の活動紹介

第一分野

広げよう！子育て支援の輪

私たちのグループは、子どもたちの周りの環境が劇的に変わっているなかで、どんな子育てのお手伝いができるかについて、考えながら活動をしています。

今の「子育て」について知ろうと、三月二十七日に、宝塚商工会議所の会議室で、講演会を開催しました。保育園の園長をされている小泉雅子先生にお話を伺いました。当日は大学生を含めて多世代にわたり、男女ほぼ同数の三〇人の参加でした。『子どもの声は「むむ街」というテーマで約一時間、先生の経験をもとにしたお話でした。一部を紹介し

- ① 子どもが被害に遭う事件が多い。どんな時にも一番弱い立場の人に、しわ寄せがいつてしまう。
- ② 子育て支援をするときは、その母親の育った環境や、現在の生活実態を受け止めてあげてほしい。また、自分が良かれとかかわっていたことが相手の悩みになることがある。



語ろう！子育て昔と今！
参加をお待ちしています

日時：6月29日(木) 13時30分～15時30分
場所：多田グリーンハイツ第1自治会館(川西市)
内容：パネルディスカッションとフリートーク
TEL/FAX 072-792-8771 (平井まで)

- ③ 生活が夜型になってきているが、「子どもは夜十時から深夜二時までの間に成長ホルモンが働き、情緒的な部分も発達する」ということを知ってほしい。
- 講演の後での、フリートークやアンケートでは、建設的な意見を多数頂きました。きつと心の中に「子育て支援の種」が宿ったのではと感じました。これからも多くの人に「種まき」をしたいと、メンバーでワクワクしながら、次の行事を計画しています。

(のびのび子育て
サポートグループ
塚本 洋子)

今年の活動をスタートして

私たち「いきいきメイクグループ」は、男女・世代を問わずに「外見を少し整えるだけで心が元気にいきいきとなっていく」活動を目指しています。今年の活動は、同じ施設に繰り返し訪問することによる効果を期待して、年四回「春・夏・秋・冬」の各バージョンで、季節にあったメイクを紹介していこうと考えています。

三月に、三田市にある特別養護老人ホーム「さんすい園」を訪問しました。『メイク教室』と称して、「お肌の手入れ」の話をしました。この時は実際に化粧をしながらにもかかわらず、「いい話を聞かせてもらった」とか「今日から肌の手入れを頑張ろう」などと、私たちの活動に対して、好意的なコメントを頂くことができました。

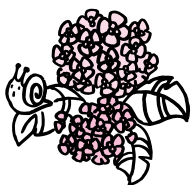
四月に実施した二回目の訪問では、メンバー以外の方で、美容師ボランティアの方にも同行してもらいました。最初に、同園の女性園長にモデルになって頂き、メイクで「変わる」様子を入居者の皆さんに見てもらいました。当初は緊張気味だった入居者の皆さんでしたが、園長が変わっていく様子を見て、「きれいになったねー」などの感想や、笑い声が出てきました。



た。私たちメンバーと一緒にモデルになってメイクをしませんか、と声をかけると、積極的に参加してくる方が出てきました。そこで、春らしいピンク色の口紅を勧めると、自ら塗って「彼氏ができるわ」などと言って、とてもステキな笑顔になりました。この笑顔をもっと多くの方に広げることができるよう、これからも活動していきたいと考えています。

(いきいきメイクグループ

みき しほ)



こどもと元気に遊べるまち ～大人が楽しめば、地域が動き出す！～

夢会議を終えて

二月二十六日開催の夢会議に
向け、昨年十二月に担当の第二
分野の各グループ代表に加え、
正副委員長、広報部会長をメン
バーに実行委員会を立ち上げま
した。テーマを「こどもと元気
に遊べるまち」として、一人で
も多くの人がまちづくりに参加
したくなるようなしくみを創る
にはどうすれば良いかを共に考
える夢会議を目指しました。

まず、第二分野の三グループ
で担当分けをし、明るく楽し
く健幸創りグループにはさわ
やかステージを、「ニコニコ水
曜会」はステージを中心に会場
設営を、「夢と希望のしくみづ
くりグループ」は講演とパネル
ディスカッションを、「広報部会
」には音響・記録・広報・会場へ

の案内を担当して頂きました。
会場の下見に始まり、講演（事
例発表）して下さる方との打合
せ、パネルディスカッションの
コーディネーターやパネリスト
の方とのリハーサル、さわやか
ステージ演者との事前打合せ等、
限られた時間内いかに内容の
濃いものを、参加者に満足して頂
けるものを創るか幾度も実行委
員会を持ちました。そして当日
を迎え、スムーズに進行するこ
とができました。

後日、各方面から色々なご意
見を頂きましたが、今回の夢会
議が今後のまちづくり活動に生
かせるよう、私たちはこの思い
を継続していかねばなりません。
今回の開催に際し、ご尽力頂い
た皆様、参加して頂いた皆様に
感謝致します。

(第二分野 嶋貫 孝弘)

16:00 場所 アステホール(アステ川西6F)

一、開 会

発表者 佐竹 正実 氏

二、事例発表「学校を活かした地域づくり」

三、全県ビジョン推進方策(案)の発表

四、県民行動プログラム(案)の発表

(休 憩)



井戸知事より

「阪神北の課題に対して、行動
していこうという各グループの
皆さんの熱意を評価しますと
ともに、成果を期待します」と
のコメントがありました。

事 例 発 表

～発表者～

佐竹 正実 氏(千葉県習志野市秋津コミュニティ運営委員)

団塊の世代のしんがりを務める。奥様がPTA役員になっ
た縁で小学校と付き合い始める。小学校のパソコンクラブ
などの活動員を行う傍ら、「秋津パソコンクラブ」の立ち上
げなど地域活動にも参画。現在、秋津まちづくり会議広報
担当、秋津コミュニティ&秋津小コミュニティルーム運営委
員などを務める。

〈秋津コミュニティの活動について〉

秋津コミュニティは「秋津小学校区に居住・勤務している方々すべてを対象に、一人ひ
とりの趣味やスポーツ・文化的な楽しみを、継続的に行えるように応援する、地域の諸団
体で構成された任意団体」です。その発足は、かつて秋津小学校が市の「生涯学習研究
指定校」になったことに始まります。

現在は年間を通して、学校や他の団体(幼稚園や小学校及び各PTA、秋津まちづくり
会議ほか)との共催を含めて、以下のような活動をしています。

- ・ 秋津小学校と地域の大運動会
- ・ 秋津まつりでのお化け屋敷や秋津っ子バザー
- ・ 防災被災訓練を兼ねた幼稚園園庭でのワンディ・キャンプ
- ・ 年末の秋津小学校コミュニティルームの大掃除後の親睦おもちつき
- ・ 新習志野公民館に参加と国際ボランティア支援おもちつき
- ・ 秋津探検ウォークラリー
- ・ 秋津音楽亭 など

これらを「楽しみながら一人ひとりが無理なくやれること」で参加しています。
「学社融合のまちづくり」をモットーに「自主・自立・自己管理」で運営されているおとな
とこどもがとつても元気なコミュニティです。



さわやかステージ

さわやかステージでは、ビジョ
ン委員・川上充さんが代表を務
める伊丹大道芸サークルの六人
のみなさんによる「伊予萬歳・
松づくし」を、ご披露頂きました。

愛媛県松山市の無形文化財指
定伊予萬歳「双葉会」会長の平
野修ご夫妻の指導を受けるため、
サークルのメンバー全員が松山
まで出向いて指導を受けました。

阪神北地域夢会議・さわやかフォーラム

パネルディスカッション

～コーディネーター～

藤本 真里 氏 (ビジョン委員会専門委員)

県立人と自然の博物館研究員。現在は博物館が連携する兵庫県立有馬富士公園をフィールドに住民が参画する公園運営について実践研究している。

～パネリスト～

太田 宜次 氏 (ビジョン委員)

川西市緑台陽明地区コミュニティ協議会事務局長。地区内では小学生が集い川遊びや豆腐づくりなどいろいろな体験を行う「びいぐるひろば」をはじめ、様々な地域活動を行っている。

北山 孝子 氏 (ビジョン委員)

宝塚いずみ会会長。好きな料理づくりを通じて、人と人との出会いの大切さを訴えるとともに、精神保健、一人暮らし高齢者の食生活相談など幅広いボランティアに取り組んでいる。

住井 一代 氏 (ビジョン委員会副委員長)

猪名川町PTA連合会顧問。PTA活動に加わったのをきっかけに、地域づくり活動に関心を持つ。また、ボーイスカウト猪名川第1団ボーイ隊の副長も務めている。

西浦 道雄 氏 (ビジョン委員会アドバイザー)

兵庫県農業会議副会長。三田市農業委員会会長。

第1期・第2期ビジョン委員会の副委員長として、また地域経済の活性化のグループで自らの農業経験を生かして、活動に尽力された。

細見 賢治 氏 (ビジョン委員)

伊丹市子ども会連絡協議会副会長。プレイパークにおける竹飯づくりなどを通じ、子どもの育成、特にリーダーの養成に力を入れている。また防災関係で猪名川町・川西市の自治会等で講師も務めている。

ま と め

「地域づくりの輪をひろげるために」というテーマでの話し合いました。

「まちづくり」や「地域づくり」をするために、どうやって仲間を増やしていくかという観点から、5人のパネリストが経験談を紹介されました。



日時 平成18年2月26日(日) 13:00～

八、閉会

七、パネルディスカッション

「地域づくりの輪をひろげるために」

六、地域行政推進プログラム(案)の発表

出演 伊丹大道芸サークル

五、さわやかステージ 伊予萬歳「松づくし」

全県ビジョン推進方策(案)の発表

兵庫県県民政策部長より説明がありました。

県民行動プログラム(案)の発表

ビジョン委員会の各グループリーダーから説明がありました。

第1分野

- ①多世代交流でふれあえるまちづくりを進める
- ②多世代で楽しむのびのびと子育てしやすい環境づくりを進める
- ③メイクにより、いきいき元気な人づくりを進める

第2分野

- ④高齢者・障害者が明るく楽しく健やかに幸せに暮らす環境づくりを進める
- ⑤“食”と“音楽”と“紙芝居”を通じて地域間、世代間交流を進める
- ⑥多くの住民参加によりコミュニティを活性化させる

第3分野

- ⑦水循環の仕組みを知り、水を大切にする
- ⑧緑を知り、緑を育てる
- ⑨ゴミの減量・省エネに取り組む
- ⑩地域の環境を考える次代を担う子どもたちを育てる

第4分野

- ⑪地域の自然と文化、史蹟を訪ね、地域交流を進める
- ⑫コミュニティ・ビジネスを通して地域を活性化させる

地域行政推進プログラム(案)の発表

兵庫県阪神北県民局担当参事より説明がありました。



この「伊予萬歳」の歴史は古く、約三百年前の寛永十二年(一六三五)徳川家康の異父弟、松平定勝(桑名城主)の次男松山定行公が、伊勢の桑名から松山に移封された時より始まったといわれています。「伊予萬歳・松づくし」は、太鼓・三味線・拍子木の音が奏でられ、松の数にあわせて扇を巧みに配置して一本目(池の松)から二本目、三本目・・・と十本目(伊勢の松)まで名所の松を数え唄で作っていかめしい内容の踊りです。

会場では、扇の松が増えていく度に拍手がおこり、大いに盛り上がりました。



第二分野

はじまるよ〜

「出前県民演芸団」初出勤!!

三月二十六日、桜のつぼみが膨らみはじめた日曜日、伊丹市身体障害者福祉連合会のご協力を頂き、伊丹市障害者福祉施設「アイ愛センター」において、グループのイベントを初めて開催し、「出前県民演芸団」が初出勤しました。

高齢者・障害者や春休みの子供さん、家族連れなど百人余りの来場者を迎え、車椅子がはいれるフロアと座敷のある大広間で、ゆったりと演芸会を楽しんでもらうことができました。

オープニングでは、阪神・淡路大震災の避難所で知り合った「仮設ボランティアグループひばり」の唄や踊りで、来場者も一緒に舞台上がって踊ったり、全員の合唱で幕があきました。



続いて伊丹東有岡婦人部の銭太鼓では、心地よい音やその手さばきを楽しんでもらいました。

落語では、関西学院大学甲山落語研究会の話術・しぐさにおなかを抱えて会場は大笑いでした。



伊丹大道芸サークルの南京玉すだれ

皿回しの妙技では、ヒヤヒヤしながらもはじめて見た方も多く、感動されていました。特に皿回しの体験コーナーでは、目の不自由な方や車椅子の方たち、また子供さんにも挑戦してもらい、うまく回った際には、観客から拍手喝さいを浴びました。

また、最後には、「阪神南地域ビジョン委員会の「長生き音頭」を来場者全員で踊り、会場がひとつになつて大いに盛り上がりました。

最後まで退席者もなく、喜んで頂くことができました。

なお、「出前県民演芸団」に参加・出演希望の個人・団体ボランティアグループの皆さん、また演芸団の出演を希望される老人会や自治会の皆さん、ぜひ、県民局まで連絡をお願いします。

(明るく楽しく健幸創りグループ 三好 勝男)

中山寺での紙芝居・フルート演奏などの集いを催して

梅見ごろの三月十二日(日)中山寺の絵馬堂で、地域の伝統・文化などを親しく伝えるというグループ活動の一環として、集いました。

当日はあいにくの雨でしたが、ガラス張りの暖かい会場に大勢の方が集まって下さいました。

最初に、中山寺の由来や行事などを織り込んだ「中山の観音様」の手作り紙芝居でスタートしました。中山寺がより身近に伝わったのではないのでしょうか。

そして紙芝居による「あてものクイズ」をしました。答えを当て、景品をもらって喜ぶ子どもたちの顔が輝いていました。

続いて、朗読「ももたろう」は、フルート演奏をバックに、懐かしい昔話を聞きながら山里の風景を感じました。

次はフルート演奏、「荒城の月」、「夢路より」、「塙生の宿」です。会場いっぱいやさしい音色に包まれ、心温まるひとときでした。締めくくりは、会



場の全員で「春の小川」、「ひなまつり」、「故郷」の楽しい合唱で、人と人との交流の大切さを強く感じました。

今回、フルート演奏を熱心に賛助出演して下さいましたこと、また女性合唱グループの大勢の方に暖かいご出演を頂いたこと、そして何よりもすばらしい会場を提供して下さいました中山寺に心から深く感謝致します。

(ニコニコ水曜会 近藤 峰子)

各分野の活動紹介

第三分野

武庫川流域エコバス

水循環を楽しく勉強しました

三月十六日、弥生半ばにしては、冷たい雨の日でした。しかし、関係者も含め総勢四十余人が乗り込んだバスの中は勉強会の雰囲気ですり上がっていました。

まずは、三田市日出坂の洗堰へ向かい、車中で洗堰について宝塚土木事務所長より「今、なくなりつつある貴重な自然を守るため、治水親水工事をした」と説明を受けました。地元住民も「日出坂堰守の会」を結成し、土手の草刈や清掃、植樹等この堰と周辺を大切にされています。

現地では洗堰の自然を活用した工事概要を聞きました(写真)。参加



者から感動の声や生態系に関する質問なども多く、活況でした。堰守の会の方々にも来て頂き、子供のころ、川遊びで学んだ生活の知恵・知識、水の恩恵を、今の子供たちに体験として教えてやりたいとの思いを聞きました。

次は、人と自然の博物館。三橋研究室から博物館の概要と武庫川の特性をスライドを駆使して、生物連鎖や自然の営みを面白く解説頂きました。

最後に武庫川上流浄化センターを見学。汚水を生物反応槽で循環させ、微生物に分解させて窒素は空中へ、磷は凝固させ焼却処理へと環境にやさしい高度処理システムを学びました。

「武庫川上流の日出坂洗堰から田畑を潤し、大自然の生物を育み、人間の生活用水となり、下水処理して再び武庫川に放流され、やがて大海へ巡る」水循環という言葉を、今一度考える一日でした。

(水グループ 大下 章)

猪名川流域エコバス参加者募集!

7月4日 猪名川源流をたずねるエコバスを実施します。参加希望者は水グループ代表西村までご連絡ください。

電話072-792-7053

花と緑のフェスティバルに参加

四月二十九日と三十日の二日間、宝塚市の末広中央公園で第十五回「花と緑のフェスティバル」が開催されました。身近な緑を語り隊は、「この木なんの木クイズウォーク」で参加しました。

公園内に植えられている十本の樹木にあらかじめ2次元バーコードを付けた「緑のものしりカード」を貼り付けておきました。カードが貼り付けられた樹木を探しながら公園内を散策してもらい、携帯電話で2次元バーコードを読み取ればクイズの答えがわかるという仕組みです。花解答して頂いた皆さんには、花



▲ビジョン委員会の活動紹介パネルを展示

のポットをプレゼントしました。当日は天候にも恵まれ、二日間で合計九十二組、約二百人の方々に参加して頂き、大盛況のうちを終了することができました。クイズウォークの受付時には、今回のクイズウォークが、ビジョン委員会の活動の一つであることを参加者に説明するとともに、ブース内にビジョン委員会のパネルを展示し、活動内容について理解を深めて頂くように努めました。多くの市民の方々に身近な緑に親しんで頂くことが出来た二日間になったと思っております。

(身近な緑を語り隊!)

松村 芳郎

第四分野

ツーリスト・マップづくり

(観光資源の再発掘)

私たちのグループは、四市一町に点在する歴史、文化、自然を訪ね、地域の人々とも親交を深め、観光文化に役立つマップづくりを目標に行動を開始しました。

猪名川町では、奈良東大寺の大仏鑄造に銅を産出したと伝えられる多田銀山発掘跡、特に豊臣秀吉の時代に大坂城の財政の一端を担ったとも言われる太閤間歩(坑道)や、代官所門、陣屋跡地などの現状を見聞きしました。県内外のツーリストをリピーターとして歓迎できる体制づくりについて、現地の人々とグループメンバーとで議論しました。(なお、多田銀山の資料館が建設される予定)川西市では、一庫ダム建設に伴い水没した国崎集落に存在した江戸時



▲炭窯と菊炭

代の農家を移設復元した民族資料館、そして茶道家にとっては貴重な「菊炭」を生産する窯を訪ね、郷土産品の素晴らしさを知りました。インターネットを介して新しい販路の開拓に取り組んでおられるものの、後継者の有無で伝統産業の保存と継承が決まってしまう厳しい現実を確認しました。

(であいたい 神内 重明)



▲屏風岩

これまでに猪名川町、川西市、それぞれに県文化財に指定されている木喰上人(東光寺所蔵他)の彫刻をはじめ、国登録有形文化財「静思館」などの建物の他に、溪流で知られる猪名川の屏風岩など、自然や景観にも優れたものがあり、これら観光資源の披露と、浸透に役立てればと思っております。

ホッとコーナー

猪名川町に木喰上人の微笑仏(木彫像)

木喰明満上人が諸国遍歴の途上、文化四年(一八〇七年)九十歳の時に猪名川町を訪れ、三ヶ月間滞在し、仏像を彫ったといわれている。現在、北田原の東光寺に十四体、阿古谷の毘沙門堂に七体、万善の天乳寺に三体、他に個人所有二体計二十六体が現存している。(いずれも兵庫県指定文化財)

上人は全国に生涯で一千体の仏像を彫り残したと伝えられているが、その内近隣では、猪名川町のみに残されている。なお、東光寺には椎の生木に彫られた仏像が明治十年代に落雷により木が枯れたため、切断して「子安観音」としてお堂に祀られている。また、同寺には寛政九年(一七七七年)寺付近の屏風岩の岸壁(高さ約三十m・幅約九十m)が北撰の第一の名所として



紹介された絵巻(撰津名所図会)が保存されている。

『木喰上人』

真言宗の戒律(木喰戒)で、五穀(米・麦・粟等)を絶ち、火食を取らず、木の実等を常食とする修行僧の一人で、仏像を彫る所を人に見せず、作業は主に夜中にノミを振るったという伝承がある。九十三歳で入定したといわれているが、終焉の地は定かではない。

(であいたい 丸橋 保雄)

編集後記

第三期ビジョン委員会も二年目に入り、グループの活発化により投稿記事が多く、広報部もうれしい悲鳴を上げております。今回、新設しました「ホッとコーナー」は、地域の歴史や文化・自然などの記事を今後も掲載して参ります。

これからも、四分野十一グループのパラエティに富んだ記事内容で、読者のみなさまに愛される「夢じゃーなる」をお届けして参ります。みなさまのご投稿をお待ちしております。

お問い合わせ先

阪神北県民局地域ビジョン課

宝塚市旭町二丁目四番十五号

電話 〇七九七八三三二一九